

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-34883
(P2002-34883A)

(43) 公開日 平成14年2月5日 (2002.2.5)

(51) IntCl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード(参考)
A 4 7 L 13/24		A 4 7 L 13/24	A 3 B 0 7 4
		13/20	A
// A 4 7 L 13/254		13/254	

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2000-254646 (P2000-254646)

(22) 出願日 平成12年7月21日 (2000.7.21)

(71) 出願人 391044797

株式会社コーワ

愛知県海部郡菰田町大字西今宿字平割一
22番地

(72) 発明者 三藤 憲

愛知県海部郡菰田町大字西今宿字平割一
22番地株式会社コーワ内

(72) 発明者 石黒 伸次

愛知県海部郡菰田町大字西今宿字平割一
22番地株式会社コーワ内

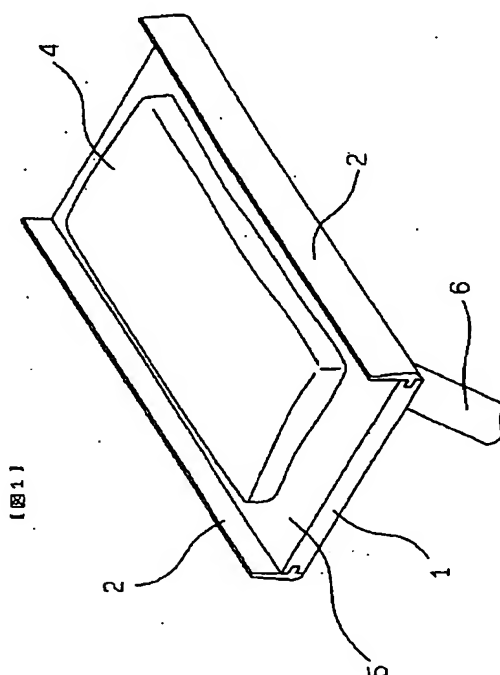
Fターム(参考) 3B074 AA07 AA08 AB01 EE00 EE01
EE02

(54) 【発明の名称】 床用掃除具

(57) 【要約】

【課題】 フローリング等の掃除に使用する掃除具で砂
ゴミ等のゴミも掃き出し拭き掃除も同時にできる床用掃
除具を提供する。

【解決手段】 略長方形の清掃板の長辺両端にゴム等の
材質より成るブレードを設け、清掃板中央に略長方形の
凸状部を設け、該凸状部に織布又は不織布より成る着脱
可能なクロスを装着し、ブレードで掃き掃除、クロスで
拭き掃除を行う。



【図1】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 略長方形の清掃板、ハンドルおよび清掃板とハンドルを回転自在につなぐ接続部より成り、清掃板の床面にあたる清掃面の中央に略長方形の凸状部を設*

ブレードの形状が略 \cap 形をしたことを特徴とする請求項1記

載の床用掃除具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、フローリング等の床用掃除具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】図4は例えば特開平6-311954号公報に開示された使いすての不織布シートに床面のゴミを付着させて取る床用掃除具の一例を示す側面図である。25は清掃板、21は把手24を有するハンドル、22は使いすての不織布シートである。把手24を持ちフローリング等の床面で掃除具を前進後退させると清掃板25に段差がついているので進行方向に傾き、不織布シート22の広い範囲にゴミを付着させることができ

【0003】

(2) 上記(1)記載の床用掃除具においてブレードの形状を略 \cap 形にして構

成したものである。

【0005】

【発明の実施の形態】実施の形態1

図1～図2に実施の形態1を示す。図1は掃除具の底面を見た斜視図で図2は中央でカットした断面図である。1は略長方形の清掃板で清掃板1の床面に当たる清掃面5には長方形の長辺側両端にゴム等の材質より成るブレード2を有する。清掃面5の中央には略長方形の凸状部3を設け、起毛を有する織布または不織布よりなるクロス4を着脱可能に取り付け、掃除具使用時にはクロス4を装着させた状態で使用する。ハンドル6を手で持ちながら清掃板1を床面で滑らせる清掃板1の先端に設けられたブレード2がゴミを押しやり、クロス4が床面を拭く働きをする。またクロス4は例えば板の間の板と板の間の小さなくぼみに起毛が入り、ゴミをかき出す働きもする。

【0006】実施の形態2

図3に実施の形態2を示す。図3は掃除具の底面を見た斜視図である。略長方形の清掃板1の長辺両端に設けるゴム等の材質より成るブレード7の形状を図のようにしてブレード7の両端が清掃板1の端部よりひろく清掃板1の外にはみだしている。壁際を掃除するときブレード7の端部が壁際のゴミを掃き出して隅々まで取り残しがなく掃除することができる。

★

*け、該凸状部に起毛を有する不織布又は織布よりなるクロスを着脱可能に取り付け、略長方形の長辺両端にゴム等の材質より成るブレードを有する床用掃除具。

【請求項2】

※【発明が解決しようとする課題】上記のような掃除具においては、床面のゴミが綿ゴミや毛髪では問題ないが砂ゴミ等が混じると清掃板の前で砂ゴミを飛ばしたり清掃面と床面の間に砂ゴミを挟み込んで床面をこすようなことが起きる。本発明はこのような問題を解決しようとしたものである。

【0004】

【課題を解決する手段】本発明は次のように構成したものである。

(1) 略長方形の清掃板の床面にあたる清掃面の長辺両端にゴム等の材質より成るブレードを設け、中央部に略長方形の凸状部を設け、該凸状部に起毛を有する織布または不織布より成るクロスを着脱可能に取り付けた構成の清掃板とハンドルおよび前記清掃板と前記ハンドルを回転自在につなぐ接続部により構成したものである。

★【0007】

【発明の効果】掃除具を前進させて使用するとき、ハンドル先端を持ち清掃板を床面で滑らせると先端のブレードがゴミを押しやり掃く働きをする。また清掃板中央のクロスは床面を拭く働きをする。さらにクロスはその起毛で床面の小さなすきまのゴミをかき出す効果を得ることができる。実施の形態2のようにブレード先端が清掃板から外にでた構成では壁際のゴミを確実に掃き取って行くことができる。そして一か所に集めたゴミはチリトリで取り除くことができる。また電気掃除機で簡単に吸い込むことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施の形態1の斜視図である。

【図2】 本発明の実施の形態1の中央でカットした断面図である。

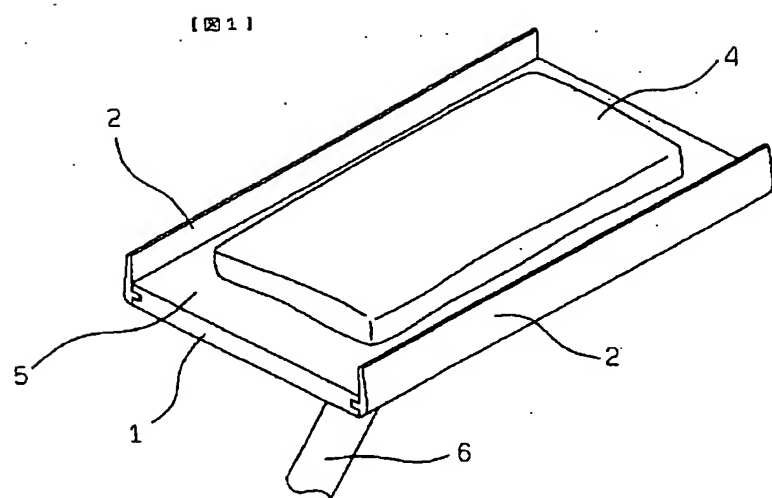
【図3】 本発明の実施の形態2の斜視図である。

【図4】 従来品の側面図である。

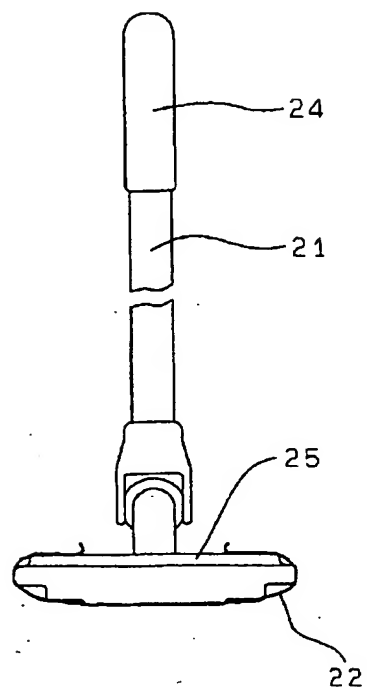
【符号の説明】

1 清掃板 2 ブレード 3 凸状部 4 クロス
5 清掃面 6 ハンドル 7 ブレード
21 ハンドル 22 使いすての不織布シート
24 把手 25 掃除具本体

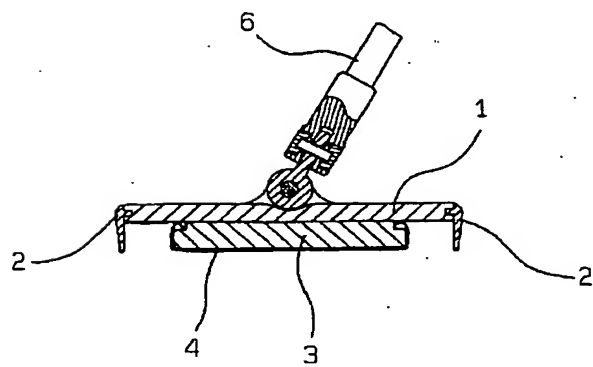
【図1】



【図4】



【図2】



【図3】

